

医歯薬学総合研究科長に就任して



医歯薬学総合研究科長
朝長 万左男

国立大学法人化をひかえた平成14年4月、文部科学省の大学院重点化政策のもと、長崎大学に医・歯・薬学部それぞれの研究科を統合した「生命・医療系」総合研究科が誕生しました。設置後学年進行完成までの4年を第1期とすれば、これから第2期が始まります。この時期に研究科長に選出され、その職務の重さを日々強く感じているところです。谷山紘太郎前研究科長および各種委員会委員長のたゆまざるご努力によって、総合研究科の整備が完了し、いよいよ「研究推進・大学院教育の質的高度化」の実績が問われる時期になります。新たな各種委員会委員の皆様とともに一丸となって、この目標達成のために精励したいと決意しております。本研究科所属の皆様はもちろんのこと、全学教職員の皆様のご協力なしには全くその目標達成はおぼつかないと思っております。ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

総合研究科としての医歯薬融合の最大のメリットは、3学系の人材・知的資産はもとより、膨大な量の研究機器も共有化され、融合型あるいは学際的ともいうべき研究領域を展開しうるポテンシャルが与えられていることにつきます。医歯薬学総合研究科教員が併任して担う各学部のライセンス教育においても、研究マインドをもって大学院に進学する学生を多数輩出するという目標が重要となってきます。

歴史的には、我が国の近代医学発展の過程において、3学系はそれぞれ固有の分化を遂げてきましたが、21世紀初頭の今、社会と科学の急速な高度化・学際化・流動化はとどまるところを知らず、生命・医療系教育研究機関として、医（H18年度より保健学修士課程創設）・歯・薬学では、その組織的融合によるメリットを最大限生かせるよう、その豊富な人材と知的資産を生かさぬ手はありません。また、各系が果たすべき固有の役割においても、融合部分からもたらされるメリットを生かせば、より広い視野に立った展開が期待できるものと確信します。

第1期ともいうべき過去4年間で、前執行部によって教授会運営に始まるきわめて多岐にわたる整備が鋭意進められ、学位審査も軌道に乗っておりますが、融合によってもたらされた研究面での実質的成果はまだ十分とは言えないことも事実であります。平成14年・15年度に医歯薬学総合研究科として、放射線・感染症の2領域において文部科学省21世紀COEプログラムに採択され、2領域の国際研究拠点が形成されたことは、長崎大学にとっても重要なステップとなりました。その波及効果は国際連携研究戦略本部の設立などに結びつき、感染症領域の国際展開は我が国でも突出したものとなり、長崎大学を支える強固な基盤が形成されました。放射線領域でもこれまでの旧ソ連邦諸国における核汚染地域でのヒバクシャ医療援助の実績にとどまらず、アジア全般を視野に入れたさらなる展開を目指しつつあります。

しかし、医歯薬学の全体領域はさらに広く、より高い視点からの総合化・融合化が模索されなければなりません。当面、世界的に関心の高い特殊感染症に対する創薬プロジェクトを医歯薬融合のモデルとして、医歯薬・熱研・附属病院にまたがる複数分野の学際的研究プロジェクトとして立案する作業が研究推進委員会で進行中です。これが突破口のひとつになることを期待したいと思います。

大学院生確保（充足率向上）の観点からは、学部教育において、学生諸君が大学院教育の目的と内容について自ら展望を描ける教育を行うことが重要と考えます。ライセンス教育の重要性はいうまでもあ

りませんが、卒後、大学院へ進学する学生数が縮小するようでは、医歯薬学の将来はおぼつかないものになります。医・歯学系においては、高次臨床実習・卒後臨床研修・専門医コースと大学院コースの整合性が強く求められるでしょう。薬学系では18年度開始の6年コースと4年コースの2学科制の推移をみつつ、新たな大学院制度の創設が求められることとなります。21世紀の生命医療系職業人(医師・歯科医師・臨床薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士そして研究・教育後継者)として身につけなければならない高度な科学知識と技術は、生涯学習の能力付与の観点からも、必然的に大学院教育を主役にしなければ達成できないものばかりであります。これらの課題を果敢に改革に結びつけていけば、国内的にもユニークな「生命医療系」大学院教育が実現できるものと考えます。

本研究科では、18年度より新たな組織再編を実施しますが、それぞれの専攻単位(あるいは専攻内の大講座単位)において重点的な研究プロジェクトの草案を出してもらいたいと思っています。また、専攻間連携を重視した研究プロジェクトの草案もご提案頂き、基礎・臨床融合型の研究プロジェクトが数多く提案されれば、なお素晴らしいと思います。また、各分野(最小研究単位)固有のユニークな研究プロジェクトの草案も出してもらい、外部資金獲得のシーズに伸ばしていけるよう支援したいと思っております。医歯薬学としての重点プログラムが二つのCOEの他にも複数立ち上げられれば素晴らしいと思っています。

さらに、医歯薬学・3学部・熱帯医学研究所・附属病院の協調の必要性が今日ほど求められている時代はないと思います。ソフト面の充実は、ハード面の整備によってはじめて可能となる面があります。医歯薬が分かれて立地している現状を克服しなければなりません。坂本地区の狭隘な立地条件を克服して、大学院教育と研究・教育に特化した総合研究・教育棟の実現の方向性はすでに中期目標にも盛り込まれた医歯薬学の総意でもあります。大学本部と協議しつつ、この実現に向けて最大限の努力を払いたいと考えております。長崎県・西九州の生命医療系アカデミアの一大拠点として、本研究科が果たすべき使命はまことに大きいものであります。その明るい将来を展望できるよう、構成員全員によるコンセンサス作りに、最大の重点を置きたいと思っております。

長崎大学教職員の皆様、研究科長としての使命を果たすべく、微力ながら努力したいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。